

～北海道がんセンター乳腺外科のご紹介～

2015 年がん統計予測によると、日本における乳がん罹患数は年間約 89,400 人、死亡数は 13,800 人で、残念ながら増え続けています。女性では一番多いがんとされています。

しかし、乳がんは、早期発見、および適切な治療により治る可能性が高い病気です。手術に加え、内分泌治療薬、抗がん剤、分子標的治療薬などの薬物療法、放射線療法を適切に組み合わせることにより、再発の可能性を下げるのが可能です。もし再発や転移を起こした場合でも、あきらめる必要はありません。継続的な治療を行うことで生活の質（QOL）を落とさずに病気とうまく付き合っていくことができます。

乳がんの診断と治療は日々進歩しています。私たちは乳がんの専門チームとして一人一人の患者様に、科学的な根拠に基づいた最新かつ最適な治療を提供し、サポートしていきます。乳腺専門医5名（うち乳腺指導医3名）を含む乳腺外科は、毎年約400人の新規乳がん患者さんを治療しています。他の診療科やチーム（放射線治療科、放射線診断科、形成外科、内科、骨軟部腫瘍科、脳神経外科、病理診断科、化学療法チーム、緩和ケアチーム、遺伝カウンセリングなど）とのシームレスな連携は総合病院ならではのメリットです。

☞乳がんの診断

最新の3Dマンモグラフィー、エコー、MRIなどを組み合わせた画像診断、および生検（マンモトームを含む組織診）により確定診断を行います。乳がんの個性（サブタイプ、悪性度）を把握し、最適な治療方針を立てます。

☞乳がんの手術

治療のために必要かつ十分な手術法をご提案します。乳房温存やセンチネルリンパ節生検など侵襲の少ない手術や、全摘が必要な場合には、形成外科と協力し保険適応で乳房再建手術も可能です。

☞乳がんの薬物療法

乳がんは全身病と考えられ薬物療法がとても重要です。治癒を目指す治療、また再発後の治療として内分泌療法、化学療法、分子標的治療薬を適切に選択します。最小の副作用で、最大の効果を得るためのノウハウを備えています。ほとんどの治療は外来通院で可能です。

☞乳がんの放射線治療

乳房部分切除後の温存乳房への放射線治療、また再発リスクを下げるためのリンパ節領域への照射、転移部位への照射を必要に応じて行います。全て、放射線治療科と連携し、当院で行うことができます。

☞遺伝子・先端医療外来

遺伝性乳がん卵巣がん症候群の可能性がある場合、カウンセリングを行った後、遺伝学的検査を行うことができます。結果によってはリスクを下げ、健康管理に役立つ対策を行うことができます。米国女優アンジェリーナ・ジョリーさんで知られた予防的乳房切除も当院で実施可能です。また再発のリスクを評価し化学療法の選択に役立つ可能性がある遺伝子検査（オンコタイプDX）も行っています。

☞治験・臨床試験

現時点で最適な治療法が確定していない患者様のグループには、全国あるいは国際規模の臨床試験や治験へのご参加をおすすめすることがあります。現時点では未承認の最新の治療を受けられる機会を提供するとともに、乳がん医療の進歩に少しでも貢献したいと考えています。

乳がん診療の流れ

